

令和4年度 編入学（助産師養成特別）

看護学部

看護学 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、7ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

問題訂正

○訂正内容

教科名 看護学（助産師養成特別）

① 頁・問題番号・行 3ページ 問4 問題文1行目

誤)

[以降、EPSD]

正)

[以降、EPDS]

② 頁・問題番号・行 4ページ 問1 問題文の最後

誤)

(30点)

正)

(30点) を削除

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(15点)

問1 標準予防策(スタンダードプリコーション)について述べなさい。

問2 点滴静脈内注射 500 ml /6時間の指示があった。20滴で1 mlの輸液セットを使用した場合の1分間の滴下数と計算式を答えなさい。ただし、小数点以下第1位は四捨五入すること。

2 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(25点)

Aさんは53歳の男性で、会社員である。デスクワークが多い仕事をしている。45歳の時、会社の健康診断で要精密検査となり、病院を受診し、2型糖尿病と診断された。食事療法と運動療法から開始となったが、仕事が忙しく食事内容を守れず、昼と夜の食事となっており、脂質が多い食事を夜21時以降に摂ることが多かった。運動もできていなかった。血糖コントロールが不良のため、経口血糖降下薬の内服が開始されて現在も継続している。1年前から微量アルブミン尿が出現するようになった。外来受診時の検査では身長165cm、体重73kg、収縮期血圧135mmHg、拡張期血圧85mmHg、空腹時血糖値128mg/dl、HbA1c 6.7%、微量アルブミン尿290mg/gCr、eGFR 50ml/分/1.73m²であった。

問1 持続して微量アルブミン尿が認められている場合、最も考えられる合併症を1つ述べたうえで、その合併症について説明しなさい。

問2 Aさんの現在の健康状態をアセスメントして、健康管理に必要な食事指導を簡潔に述べなさい。

3 次の文章は、訪問看護制度とサービスの提供について述べたものである。文章中の①～⑩に入る適切な語句や数値を記入しなさい。(30点)

介護保険制度による訪問看護サービスを利用するためには、保険者である(①)へ要介護認定を申請しなければならない。要介護認定結果が「非該当」の場合は、(②)歳以上(③)歳未満の医療保険加入者(第2号被保険者)で老化に起因する16特定疾病に罹患している療養者であっても、介護保険による訪問看護を利用することはできない。

「特別訪問看護指示書」は急性増悪や終末期などの場合に月(④)回交付でき、有効期限は指示日から最長(⑤)日までである。尚、気管カニューレ使用の患者と真皮を超える褥瘡の患者には月(⑥)回まで交付できる。「特別訪問看護指示書」による訪問看護は、(⑦)が適用される。

指定訪問看護ステーションの人員に関する基準では、看護職員のほか(⑧)、(⑨)、(⑩)を実情に応じて適当数配置することができる。

4 次の事例を読み、あとの問いに答えなさい。(30点)

Aさんは40歳の女性である。10年前にうつ病と診断され、定期的に外来受診を行っていた。外来では選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)と睡眠薬が処方されていたが、気分の落ち込みが激しい時や眠れないときに服用するなど、自分で調整しながら服用していた。最近、仕事の部署が異動になり、周囲の人間関係がうまくいかず、悩んでいた。夫は病気に対して理解があり、家事にも協力的であった。ある日、夫が仕事から帰宅すると、台所で意識を失っているAさんを発見した。テーブルの上には処方されていた睡眠薬の空き袋が大量にあった。救急搬送後、救急外来で処置を行ったところ、身体的に異常はなかったことから、精神科病院に入院となった。

問1 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)の代表的な副作用について2つ述べなさい。

問2 入院後、危険物を所持していないことを確認し、一般病室に案内した。看護師が病棟のオリエンテーションを行っている際、Aさんは看護師の説明に小さな声で受け答えするものの、表情は暗く、目を伏しがちであった。この時、看護師はどのように声をかけるのが適切か述べなさい。

問3 入院から2か月が経過し、症状は軽快した。Aさんの入院前の状況を踏まえた上で、退院に向けたAさんに対する看護師の適切な対応を述べなさい。

5 以下の問いに答えなさい。(14点)

問1 女性の性周期とホルモンについて、正しいものはどれか。2つ選びなさい。

1. 卵胞刺激ホルモン [FSH] は視床下部から分泌される。
2. 発育した卵胞からはエストロゲンが分泌される。
3. 成熟卵胞に黄体化ホルモン [LH] が作用することで排卵が起こる。
4. 排卵後、プロゲステロンの作用で基礎体温は低温期となる。
5. 排卵を契機に子宮内膜は分泌期から増殖期にかわる。

問2 女性生殖器について正しいものはどれか。2つ選びなさい。

1. 女性の腔内は乳酸菌の作用によって酸性になっている。
2. 女性の生殖腺は子宮である。
3. 膀胱と子宮前壁の間をダグラス窩という。
4. 卵管采は子宮頸部に接着している。
5. 子宮の上部は平滑筋で構成されている。

問3 妊娠30週の妊婦。「最近便秘がひどくなってきました。」と言う。保健指導で最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「お腹の動きが良くなるように、温めてみましょう。」
2. 「水分摂取を控えましょう。」
3. 「腹部のマッサージをしましょう。」
4. 「食物繊維を多く含む食品を摂りましょう。」
5. 「脂肪を多く含む食品を摂りましょう。」

問4 エジンバラ産後うつ病自己評価票 [以降, EPDS] について、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 過去2週間の精神状態について尋ねている。
2. 質問項目は10項目である。
3. 日本では、9点以上を産後うつ病の疑いとして取り扱うのが適切である。
4. 厚生労働省は産後うつ病の予防のために、産後2週間健診・産後1ヶ月健診等でEPDSの費用を助成する妊産婦健康診査事業を実施している。

問5 正常新生児の退院後の生活に関する親への指導で、適切なものを1つ選びなさい。

1. 「体重測定は、決まった時間に毎日行いましょう。」
2. 「チャイルドシートは3か月を過ぎてから使いましょう。」
3. 「沐浴は、空腹時や授乳直後は避けましょう。」
4. 「夏はエアコンの風が直接当たるところで寝かせましょう。」

6 以下の問いに答えなさい。(18点)

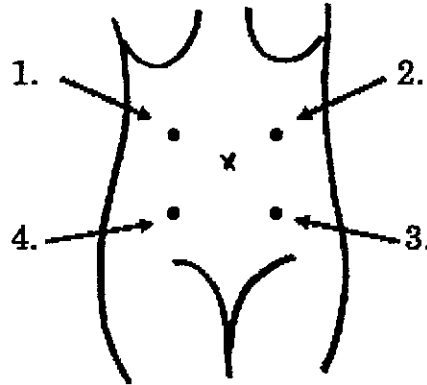
問1 以下の文章は、妊婦健康診査について述べたものである。文章中の①～⑧に入る適切な語句や数値を、下記の選択肢から選び記号で答えなさい。(30点)

妊娠経過の診断は医師または助産師による妊婦健康診査で行われる。妊婦健康診査は妊娠23週までは(①)週間に1回、妊娠24週～35週までは(②)週間に1回、妊娠36週以降分娩までは1週間に1回受診するよう推奨されている。妊婦健康診査では、母子健康手帳の項目に沿って、体重、血圧、尿タンパク、尿糖、子宮底長、腹囲、浮腫を確認する。血圧は妊娠高血圧症候群を診断するための必須の情報である。日本妊娠高血圧学会において妊娠高血圧症候群の定義は、「収縮期血圧(③)mmHg以上または拡張期血圧(④)mmHg以上を高血圧とし、妊娠週数にかかわらず高血圧がみとめられたもの」とされている。下肢の浮腫は生理的にも軽度出現し、とくに立位を長時間続けていると出現するが、両脚の(⑤)や足背を圧して圧痕が鮮明に残ったり、起床時にも軽減していないような場合は異常と考える。胎児の発育状況は、子宮底長、腹囲をもとに評価する。子宮底長を測定する時は下肢を(⑥)させ、メジャーの0点を(⑦)に合わせ、子宮の最高点までの距離を腹壁のカーブに沿って測定する。胎児の健康状態は胎児心拍数で評価する。超音波ドップラーの胎児心拍数の正常範囲は毎分(⑧)回～160回である。

【選択肢】

ア 6	イ 4	ウ 2	エ 160
オ 140	カ 110	キ 100	ク 90
ケ 脛骨稜	コ 腓骨	サ 伸展	ス 屈曲
セ 恥骨結合上縁	ソ 恥骨結合下縁	タ 臍中央	

問2 妊娠39週の妊婦。胎位は第1頭位である。胎児心音の聴取部位を図に示す。最も適切な聴取部位を1つ選びなさい。



7 次の文章は正常の分娩経過について述べたものである。文章中の①～⑨に入る適切な語句や数値を記入しなさい。(27点)

分娩開始は、陣痛が(①)分間隔に規則正しく起こるか、または1時間に(②)回の陣痛が起こる時点をいう。分娩開始から、(③)までを分娩第1期、(③)から(④)までを分娩第2期、(④)から(⑤)の娩出までを分娩第3期という。分娩開始に先行して起こる徴候を、分娩の前兆とよぶ。分娩の前兆では、子宮口付近の卵膜がはがれて粘液の混じった少量の出血を認めることがある。これを(⑥)という。分娩の進行に伴い、子宮内圧が上昇し胎児の先進部の胎胞は緊満する。卵膜が破綻すると羊水が流出する。これを(⑦)という。分娩第2期では、児頭がさらに下降し、陣痛発作時に陰裂が開き児頭の一部が見えるようになる。陣痛間欠時には児頭が陰裂から後退して見えなくなる状態を(⑧)という。(⑧)ののちに、陣痛発作時や陣痛間欠時にも児頭が陰裂から露出した状態になる。これを(⑨)という。通常、(⑨)から数回の陣痛で児頭ならびに体幹の娩出にいたる。

- 8 以下の文章は、産褥期の女性の退行性変化、進行性変化に関連したことを述べたものである。文章中の①～⑧に入る適切な語句や数値を、下記の選択肢から選び記号で答えなさい。(16点)

退行性変化の1つとして子宮復古がある。悪露の量が(①)こと、悪露の色が変化すること、子宮底長が経日的に短縮していくこと、子宮が(②)触れることで、子宮復古が良好であると判断できる。

進行性変化は乳房に起こる変化である。母乳の産生を促す作用のホルモンである(③)は下垂体(④)から分泌される。また、乳頭の吸啜刺激により下垂体(⑤)から分泌されるオキシトシンが腺房細胞等の筋上皮細胞を(⑥)させる作用があり、乳汁分泌が良好な場合は(⑦)が確認できる。なお、授乳をしている褥婦の食事は、母乳生成のために(⑧)kcal付加される。

【選択肢】

ア 250	イ 350	ウ 450	エ 減る
オ 増える	カ 柔らかく	キ 硬く	ク 前葉
ケ 後葉	コ プロゲステロン	サ プロラクチン	ス パラトルモン
セ 弛緩	ソ 収縮	タ 圧乳	チ 射乳

9 次の文章は新生児の生理や特徴、看護について述べたものである。文章中の①～⑨に入る適切な語句や数値を、下記の選択肢から選び記号で答えなさい。(18点)

- (1) 肺胞表面の水分と空気の界面には (①) による被覆層が形成され、その表面張力で、肺胞はつぶれない。
- (2) 新生児にみられる一過性の黄疸を、(②) 黄疸という。
- (3) 新生児の呼吸は、呼吸パターンが不規則で、(③) が主である。
- (4) 新生児の便は、最初は粘調度の高い暗緑色の (④) が排泄され、その後、黄緑色の移行便となる。
- (5) 口のなかに入ってきたものを吸いつく動きを、(⑤) 反射という。
- (6) 新生児の胃の形状は縦型であり、(⑥) 部の括約筋が弱いため、吐乳が生じやすい。
- (7) 新生児のバイタルサインは、(⑦) →心拍数→体温の順番で、安静の状態で測定する
- (8) アプガースコアの心拍数の評価では、(⑧) 回/分以上が2点、それ未満が1点、心拍なしが0点である。
- (9) 新生児の胸囲の計測では、上半身を裸にし、メジャーが左右の (⑨) を通る周囲径を測定する。

【選択肢】

ア グロブリン	イ サーファクタント	ウ グリセリン	エ 胆道閉塞性
オ 生理的	カ 早発性	キ 鼻呼吸	ク 陥没呼吸
ケ 口呼吸	コ 胎便	サ 水様便	ス タール便
セ モロー	ソ 探索	タ 把握	チ 吸啜
テ バビンスキー	ト 咽頭	ナ 幽門	ニ 噴門
ヌ 血圧	ネ 呼吸数	ノ 60	ハ 100
ヒ 120	フ 乳頭	ヘ 肩甲骨上縁	ホ 腸骨稜

10 リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは何か。説明しなさい。(7点)